



発行

令和二年四月二十七日発行  
城ノ内高校人権委員会  
レバラーズ

こんにちは、人権委員会です。

新型コロナウイルス感染症の影響で、新学期早々再び休校となってしまいました。元気でしたか？

新型コロナウイルス感染症は、健康や学校生活に大きな影響を与えています。一方で思いもよらない人権問題を引き起こしています。そこで、第二号も新型コロナウイルス感染症にまつわる人権問題について書いていきたいと思います。

### 新型コロナウイルス感染症と聴覚障がいについて

最近、新型コロナウイルス感染症に関連して、各都道府県知事の記者会見をテレビなどで目にする機会が増えてきました。その際に、ほとんどの知事はマスクをしたままですが、大阪府の吉村知事は、最近マスクを外すようになりました。なぜだと思いませんか？

実は、これは聴覚に障がいのある人への配慮を目的としています。聴覚に障がいのある人にとつては、口の動きは言葉を読み取るための重要な手段のひとつとなっています。普段手話を用いている人であっても、コミュニケーションを取る上で、表情や唇の動きなどを役立てています。このため、新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い、マスクをつける人が増えたことで、表情や唇の動きなどの情報が伝わりにくくなり、不安を感じているそうです。また、以前に比べ、補聴器や人工内耳などの進歩により、一般の人と同じように生活できる人は増えています。しかし、そういった人でも、聴覚に障がいのない人と比べると、全て同じように聞こえているわけではありません。

聴覚に障がいのない人は、脳が聞きたいことばや音に集中しながら、興味のない音や騒音を無視することができます。しかし、補聴器や人工内耳は、機械が音を大きくしたり、電気信号に変えるので、すべてが同じ大きさで聞こえてしまいます。そのため、うるさいところでは音として聞こえても、何を言っているのかわからなくなってしまうことがあります。そのような聞こえ方を補うためには、唇の動きや表情など、視覚による情報がとても重要になります。そのため、横を向きながら話されたり、マスクをしていると、言っていることがよくわからないことがしばしばあるそうです。また、駅や電車内での放送や電話の受話器のように、スピーカーなどの音源媒体を通じた音は、特に聞き取りにくく、緊急時などは何が起きているのか把握できないことが多いそうです。

NHKパリンピック放送リポーターで、自身も重度の難聴で、人工内耳をつけている後藤佑季さんによると、聴覚に障がいのある人の多くは、さまざまな情報を元に会話をしているそうです。後藤さんの場合は「音」が4割ぐらい、「唇の動き」が3割ぐらい、「表情」が1割、残りの2割が「文脈からの予測」だそうです。このため、マスクをしていると、音がこもって聞こえにくくなるうえ、唇の動きと表情が見えなくなるため、言葉が伝わりにくくなるということです。

このように、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、多くの人が感染防止のためにマスクをつけるようになったことで、聴覚に障がいを持つ人の中には、買い物や病院に行くときに苦労したり、中には家にひきこもりがちになる人も出たりしているとのことです。しかも、聴覚障がいは「目に見えない障がい」であるため、誤解されたり、なかなか理解してもらえないことも多いのだそうです。これらは、今まで見えにくかった問題が、新型コロナウイルス感染症の広がりによって表面化してきたともいえます。

### スムーズなコミュニケーションのために

とはいえ、聴覚に障がいを持つ人も、自分のために感染リスクをおかしてまで口を見せてくださいとはなかなか言い出しづらいところがあります。では、聴覚に障がいのある人がスムーズに会話できるようにするには、どうすればよいのでしょうか？

ポイントの一つが、「筆談と指さし」です。「筆談」は紙とペンがあればできますし、スマートフォンを用いるのも効果的です。「指さし」は、指でさすだけで伝わるボードのようなものがあれば、スムーズなやりとりをすることができます。これらは聴覚に障がいがない人が意識することで、聴覚に障がいがある人とのコミュニケーションを深めることに役立ちます。

また、「耳マーク」というものもあります。「聞こえない・聞こえにくい」ということを知らせたり、施設や店舗などが配慮する準備があるということを知らせたりするマークです。こういったものを活用するのも一つの方法です。これらの対策は、聴覚に障がいがある人だけでなく、耳が聞こえづらくなってきた高齢者にとっても有効です。身近にさまざまな配慮が必要な人がいるというのを意識するとともに、自分たちに何ができるかを常に考えてみてください。

### いかがでしたか？

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、マスクをつける人が増えてきました。学校でも始業式や登校日には、みなさんにマスクの着用をお願いしますが、聴覚に障がいのある人にとっては、マスクの着用が広がることでコミュニケーションがとりづらくなり、日常生活に支障をきたすという面もあります。

このように、厳しい状況下になればなるほど、弱い立場の人ほど厳しい立場に追いやられてしまいがちです。このような時でも、互いの人権を尊重して行動することができるよう心がけていきましょう。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

